

「諏訪の湖には魚多し」復活への取組み

～諏訪湖水産多面的機能発揮対策事業活動組織～



諏訪湖の概要

諏訪湖は、本州のほぼ中央、長野県の諏訪盆地に位置する。湖の周囲は約16km、湖内面積は約13km²、最大水深約7m、平均水深4.7mの湖です。

湖は、諏訪市・岡谷市・下諏訪町に囲まれ、精密機械が盛んであり、湖内では、主にワカサギ漁などが営まれ、遊漁者も多く訪れます。

近年では、護岸化や水門上段の放水等による魚の住環境の悪化に加え、ヒシの大量発生により底質がヘドロ化し、さらに、湖の貧酸素化が深刻となっています。これらによって、湖底の生物はほぼ全滅し、魚類も大幅に減少しました。



活動組織の概要

【設立】 平成25年7月12日

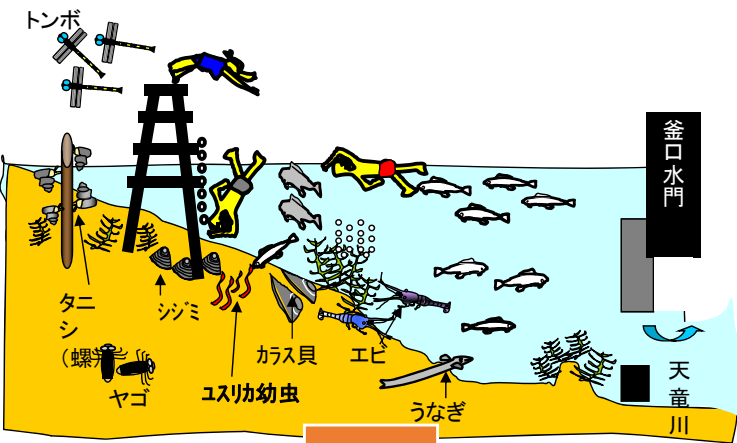
【体制】 諏訪湖漁業協同組合、長野県水産試験場、長野県諏訪地方事務所、諏訪建設事務所、3市町村（岡谷市、下諏訪町、諏訪市）

【活動】 活動項目及びH26年度スケジュールは、以下の通り。

	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
浅場の保全				●	●	●	●				●
波貝の種苗放流						●	●				
ヒシの除去	●				●		●				
モニタリング				●		●	●	●			
食文化継承						●					

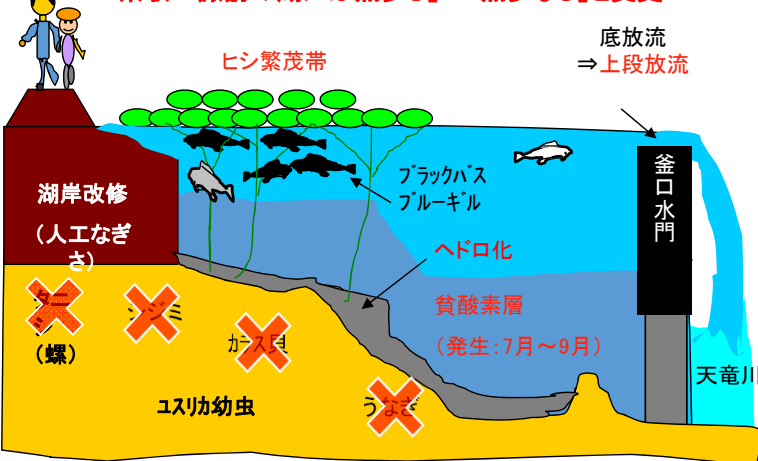
昭和20年代の諏訪湖

県歌：信濃の国⇒「諏訪の湖には魚多し」



現在の諏訪湖

県歌：「諏訪の湖には魚多し」⇒「魚少なし」と変更？



H26年度の活動



岡谷地区、高浜地区、渋崎地区それぞれに保護区（50m×50m）を新たに設置し、下記の単貝を放流し、底質改善を図りました。また、湖岸にマコモ35株を新たに移植したり、浮遊堆積物の除去を行いました。



上記の3箇所を保護区を10月下旬に耕うんした後、11月上旬にサクラガイ（ドブガイ）（100kg×3箇所）を放流しました。

その後、ジョレンを用いて生存数の確認を行いました。



室町時代には諏訪大社へ、江戸時代には高島藩主から幕府に献上されていた「鮭鮒」を復活させたいという思いから、平成20年から自分達で作りはじめ、郷土の食文化の伝承を行っています。今年で5回目となる鮭鮒祭りを10月に開催し、約200人が来場しました。